

小形ダイレクトシリンダ MDC2-HP1 シリーズ

取扱説明書

SM-A42787



- 製品をご使用になる前に、本取扱説明書を必ずお読みください。
- 特に安全に関する記述は、注意深くお読みください。
- 本取扱説明書は必要なときにすぐ取出して読めるように、大切に保管してください。

はじめに

このたびは、当社の小形ダイレクトシリンダ「MDC2-HP1 シリーズ」をお買求めいただきまして、誠にありがとうございます。本取扱説明書は本製品の性能を十分に発揮させるために、取付、使用方法などの基本的な事項を記載したものです。よくお読みいただき、正しくご使用ください。

なお、本取扱説明書は紛失しないように、大切に保管してください。

本取扱説明書に記載の仕様、外観は、将来予告なく変更することがあります。

- 本製品を使用するにあたって、材料や配管、電気、機構などを含めた空気圧機器についての基礎的な知識を持った人を対象にしています。知識を持たない人や十分な訓練を受けていない人が選定、使用して起こした事故に関しては、当社は責任を負いません。
- お客様によって使用される用途は多種多様にわたるため、当社ではそれらのすべてを把握することができません。用途、用法によっては流体、配管、その他の条件により性能が発揮できない場合や事故につながる場合があります。用途、用法にあわせてお客様の責任で、製品の仕様の確認、使用方法の決定を行ってください。

安全にご使用いただくために

本製品を使用した装置を設計、製作する場合は、安全な装置を製作する義務があります。そのためには、装置の機械機構と、各流体制御回路、これらを電気制御するシステムの安全性が確保できることを確認してください。

装置の設計、管理などに関する安全性については、団体規格、法規などを必ずお守りください。

JIS B 8370(最新版)

高圧ガス保安法や労働安全衛生法、その他の安全規則、団体規格、法規など

当社製品を安全にご使用いただくためには、製品の選定、使用、取扱い、保安全管理を適切に行うことが重要です。

装置の安全性確保のために、本取扱説明書に記載の警告、注意事項を必ずお守りください。

本製品にはさまざまな安全策を実施していますが、お客様の誤った取扱いによって事故につながる場合があります。そのようなことがないためにも、

必ず本取扱説明書を熟読し、内容を十分に理解したうえでご使用ください。

注意事項は危害、損害の大きさと発生の可能性の程度を明示するために、「危険」「警告」「注意」の3つに区分されています。

 危険	誤った取扱いをすると、人が死亡する、または重傷を負う危険が差迫って発生することが想定されるもの。
 警告	誤った取扱いをすると、人が死亡する、または重傷を負う可能性が想定されるもの。
 注意	誤った取扱いをすると、人が傷害を負う、または物的損害が発生する可能性が想定されるもの。

なお、「注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも重要な内容を記載しているため、必ずお守りください。

その他、一般的な注意事項や使用上のヒントを以下のアイコンで記載しています。



一般的な注意事項や使用上のヒントを表します。

製品に関する注意事項

警告

取扱いは十分な知識と経験を持った人が行う。

本製品は、一般産業機械用装置・部品として設計、製造されたものです。

製品の仕様範囲内での使用を守る。

製品固有の仕様外での使用はできません。また、製品の改造や追加工は絶対に行わないでください。

本製品は一般産業機械用装置・部品での使用を適用範囲としているため、屋外、次に示すような条件・環境で使用する場合には適用外とさせていただきます。

(ご採用に際し当社にご相談いただき、当社製品の仕様をご了解いただいた場合は適用になります。ただし、その場合でも、万一の故障に備えて危険を回避する安全対策をとってください。)

- 原子力や鉄道、航空、船舶、車両、医療機械、飲料・食品などに直接触れる機器や用途での使用。
- 娯楽機器や緊急遮断回路、プレス機械、ブレーキ回路、安全対策用など、安全性が要求される用途での使用。
- 人や財産への大きな影響が予想され、特に安全が要求される用途での使用。

安全を確認するまでは、本製品の取扱い、配管・機器の取外しを絶対に行わない。

- 機械、装置の点検や整備は、本製品が関わるすべてのシステムの安全が確保されていることを確認してから行ってください。また、エネルギー源である供給空気や供給水、該当する設備の電源を OFF にし、システム内の圧縮空気は排気し、水漏れ、漏電に注意してください。
- 運転停止時も、高温部や充電部が存在する可能性があるため、本製品の取扱い、配管・機器の取外しは注意して行ってください。
- 空気圧機器を使用した機械、装置を起動または再起動する前に、飛出し防止処置などによりシステムの安全性が確保されているか確認してください。

廃棄に関する注意事項

注意

製品を廃棄するときは、廃棄物の処理や清掃に関する法律に準拠し、専門廃棄物処理業者に依頼して処理する。

目次

はじめに	i
安全にご使用いただくために.....	ii
製品に関する注意事項.....	iii
廃棄に関する注意事項.....	iv
目次.....	v
1. 製品概要.....	1
1.1 形番表示.....	1
1.1.1 製品形番	1
1.2 仕様.....	3
1.2.1 製品仕様	3
1.2.2 スイッチ仕様	4
2. 取付け.....	5
2.1 設置環境.....	5
2.2 開梱.....	6
2.3 取付方法.....	6
2.3.1 本体の取付け	6
2.3.2 スイッチの取付け	6
2.3.3 スイッチの移動方法	8
2.3.4 スイッチの交換方法	8
2.4 配管方法.....	9
2.4.1 配管継手	10
2.5 配線方法.....	12
2.5.1 無接点スイッチ.....	12
2.5.2 有接点スイッチ.....	15
3. 使用方法.....	17
3.1 シリンダの使用方法.....	17
3.2 スイッチの使用方法.....	18
4. 保守、点検.....	19
4.1 定期点検.....	20
4.1.1 点検項目	20
4.1.2 製品のメンテナンス	20
4.1.3 回路のメンテナンス	20
4.1.4 内部構造	21
5. トラブルシューティング	23
5.1 トラブルの原因と処置方法.....	23
5.1.1 シリンダ部.....	23
5.1.2 スイッチ部.....	24
6. 保証規定.....	25
6.1 保証条件.....	25
6.2 保証期間.....	25

1. 製品概要

1.1 形番表示

1.1.1 製品形番

■ MDC2-HP1 シリーズ

- スイッチなし（スイッチ用磁石無し）

MDC2 - 6 - 4 — HP1

- スイッチ付（スイッチ用磁石内蔵）

MDC2-L - 6 - 4 - F2V - R - HP1

① 機種形番

② チューブ内径

③ ストローク

④ スイッチ形番

注1
注2
注3
注4

⑤ スイッチ数

記号		内 容				
① 機種形番						
MDC2	複動・片ロッド形	スイッチなし				
MDC2-L	複動・片ロッド形	スイッチ付				
② チューブ内径						
4	φ4					
6	φ6					
8	φ8					
10	φ10					
③ ストローク(mm)						
3	3 (φ4)					
4	4 (φ6~φ10)					
6	6 (φ4~φ10)					
8	8 (φ6、φ8)					
10	10 (φ10)					
④ スイッチ形番						
リード線 ストローク	リード線 L字タイプ	接点	電圧	表示	リード線	
			AC DC			
F0H※	F0V※	有接点		●	1色表示式	2線
—	F2S※			●		
F2H※	F2V※			●		
—	F3S※			●		
F3H※	F3V※	無接点		●	1色表示式 (PNP出力) (受注生産)	3線
F3PH※	F3PV※			●		
F2YH※	F2YV※			●	2色表示式	2線
F3YH※	F3YV※			●		3線
※リード線長さ						
無記号		1m(標準)				
3		3m(オプション)				
⑤ スイッチ数						
R	ロッド側1個付					
H	ヘッド側1個付					
D	2個付					

- 注 1: φ4 のスイッチ付きは選定できません。
- 注 2: 有接点スイッチ付 MDC2 はシリンダを磁性体(鉄板など)に取付けることはできません。スイッチ検出不良の原因になります。
- 注 3: 有接点スイッチ付 MDC2-L-6 を使用の際はシリンダ取付ボルトは非磁性体(ステンレス製六角穴付きボルトなど)を使用してください。スイッチ検出不良の原因になります。
- 注 4: スイッチ付最小ストロークについては、2 ページを参照してください。

■ ストローク

チューブ内径 (mm)	標準ストローク (mm)	最大ストローク (mm)	スイッチ 2 個付最小ストローク(mm)		スイッチ 1 個付最小ストローク(mm)	
			有接点スイッチ	無接点スイッチ	有接点スイッチ	無接点スイッチ
φ4	3・6	6	—	—	—	—
φ6	4・6・8	8	6	4 (8)	4	4
φ8	4・6・8	8	8	4 (8)	4	4
φ10	4・6・10	10	6	4 (10)	4	4

※ 標準ストローク以外は製作できません。

※ F2Y,F3Y,F3P の場合、最小ストロークは()内の寸法になります。

1.2 仕様

1.2.1 製品仕様

項目	機種	MDC2-HP1			
		MDC2-L-HP1(スイッチ付)			
チューブ内径	mm	φ 4	φ 6	φ 8	φ 10
作動方式		複動形			
使用流体		圧縮空気			
最高使用圧力	MPa	0.7			
最低使用圧力	MPa	0.2	0.15		0.1
耐圧力	MPa	1.05			
周囲温度	℃	－10～60(ただし、凍結なきこと) 注 1			
接続口径		M3			M5
ストローク許容差	mm	+0.5 0			
使用ピストン速度	mm/s	50～500			
クッション		なし			
給油		不要			
許容吸収エネルギー	J	当製品では、シリンダに取り付けられる外部負荷により発生するエネルギーは吸収できません。 無負荷で使用または、外部に別途緩衝装置を設けてください。			

注 1: 無接点スイッチ使用時は 40℃以下で使用してください。

1.2.2 スイッチ仕様

項目	無接点			
	2 線式		3 線式	
	F2S/H/V	F2YH/V	F3S/H/V	F3YH/V
用途	DC プログラマブルコントローラ専用		DC プログラマブルコントローラ、リレー用	
電源電圧	—		DC10～28V	
負荷電圧	DC10V～30V	DC24V±10%	DC30V 以下	
負荷電流	5～20mA 注 2		50mA 以下	
消費電流	—		DC24V で 10mA 以下	
内部降下電圧	4V 以下		0.5V 以下	
表示灯	黄色 LED 注 3 (ON 時点灯)	赤色/緑色 LED (ON 時点灯)	黄色 LED 注 3 (ON 時点灯)	赤色/緑色 LED (ON 時点灯)
漏れ電流	1mA 以下		10 μ A 以下	
リード線 注 1	標準 1m (耐屈曲、耐油性ビニールキャブタイヤコード 2 芯、 0.15mm ²)		標準 1m (耐屈曲、耐油性ビニールキャブタイヤコード 3 芯、 0.15mm ²)	
耐衝撃	980m/s ²			
絶縁抵抗	DC500V メガーで 20MΩ 以上			
耐電圧	AC1000V 1 分間印加で異常なきこと			
周囲温度	－10～60℃			
保護構造	IEC 規格 IP67、JIS C 0920 (防浸形)、耐油			

項目	無接点 3 線式	有接点 2 線式
	F3PH/V	F0H/V
用途	DC プログラマブルコントローラ、リレー用	DC プログラマブルコントローラ、リレー用
電源電圧	DC4.5～28V	—
負荷電圧	DC30V 以下	DC24V±10%
負荷電流	50mA 以下	5～20mA 注 2
消費電流	DC24V で 10mA 以下	—
内部降下電圧	30mA で 0.5V 以下	4V 以下
表示灯	黄色 LED (ON 時点灯)	黄色 LED (ON 時点灯) 注 3
漏れ電流	10 μ A 以下	1mA 以下
リード線 注 1	標準 1m (耐屈曲、耐油性ビニールキャブタイヤコード 3 芯、0.15mm ²)	標準 1m (耐屈曲、耐油性ビニールキャブタイヤコード 2 芯、0.15mm ²)
耐衝撃	980m/s ²	294m/s ²
絶縁抵抗	DC500V メガーで 20M Ω 以上	DC500V メガーで 20M Ω 以上
耐電圧	AC1000V 1 分間印加で異常なきこと	AC1000V 1 分間印加で異常なきこと
周囲温度	－10～60℃	－10～60℃
保護構造	IEC 規格 IP67、JIS C 0920 (防浸形)、耐油	IEC 規格 IP67、JIS C 0920 (防浸形)、耐油

注 1: リード線のオプションとして他に 3m、5m を用意しています。(F 形スイッチの 5m は除く)

注 2: 上記の負荷電流の最大値:20mA は、周囲温度が 25℃の場合の値です。
スイッチ使用周囲温度が 25℃より高い場合は、20mA より小さくなります。(60℃で 5～10mA)。

注 3: F2S、F3S の表示灯は赤色です。

※ F□H はリード線ストレートタイプ、F□V はリード線 L 字タイプを表しています。

2. 取付け

2.1 設置環境

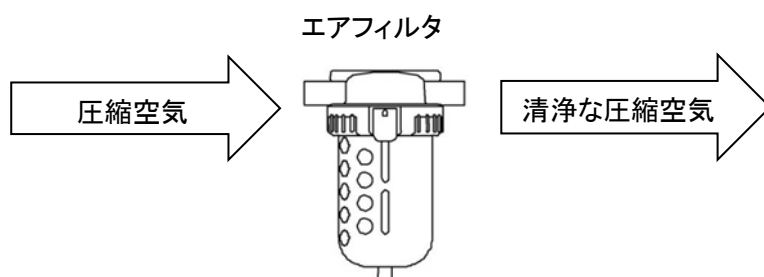
⚠ 注意

切削、鋳物、溶接工場などでは切削液、切粉、粉塵などの異物が進入するおそれがあるため、カバーなどでできるだけ防ぐようにする。

下記環境では使用を禁止する。

- 切削液が掛かる場合(液中の研磨剤または研磨粉によって摺動部が削られるため)
- 有機溶剤、薬品、酸、アルカリ、灯油などが雰囲気中に含まれる場合
- 水が掛かる場合

- 下記の周囲温度で使用してください。
-10～60℃(ただし、凍結なきこと)
- 圧縮空気には、エアフィルタを通した清浄で水分の少ないエアを使用してください。
このため、回路にはエアフィルタを使用し、ろ過度(5 μ m 以下が望ましい)や流量、取付位置(方向制御弁に近づける)などに注意してください。



- 含油軸受を使用しているため、シリンダ外部に油分が排出される可能性があります。
油の排出をきらう場所で使用する際は注意してください。

2.2 開梱

- ・ ご注文の製品形番と製品に表示されている形番が、同一であることを確認してください。
- ・ 製品外部に損傷がないことを確認してください。
- ・ 配管ポートからシリンダ内部に異物が入らないよう管理してください。

2.3 取付方法

2.3.1 本体の取付け

ピストンロッドに横荷重が掛からないよう、ガイドを設けてください。
(例)ストッパとしての横荷重は掛けしないでください。

2.3.2 スイッチの取付け

<ストロークエンド取付時>

スイッチを最高感度位置で作動させるために、ロッド側 RD 寸法、ヘッド側 HD 寸法の個所にそれぞれ取付けてください。

<ストローク中間位置取付時>

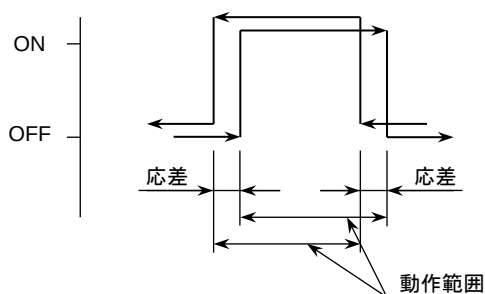
ストローク途中で検出する場合は、停止する位置にピストンを固定した状態で、スイッチをピストンの上で前後に移動させ、スイッチが最初に ON になる位置を見つけ出します。2 つの位置の間がそのピストン位置での最高感度位置であり、取付位置になります。

■ 動作範囲

ピストンが移動してスイッチが ON になり、さらに同一方向に移動して OFF になるまでの範囲を指します。

■ 応差

ピストンが移動してスイッチが ON になった位置から、逆方向に移動して OFF になるまでの距離を指します。



■ 最高感度位置(HD、RD)、動作範囲、応差(単位:mm)

● スイッチ取付位置

有接点スイッチ(F0)		無接点スイッチ F2S、F3S	無接点スイッチ (F2、F3、F2Y、F3Y、F3P)	
リード線 ストレートタイプ(H)	リード線 L 字タイプ(V)		リード線 ストレートタイプ(H)	リード線 L 字タイプ(V)

● スイッチ取付寸法

有接点スイッチ(F0H/V)											
スイッチ取付方式	RD			HD			X(注 2)			動作範囲	応差
チューブ内径 (mm)	ストローク(mm)										
	4	6	8 (10)	4	6	8 (10)	4	6	8 (10)		
	φ6	1	1	1	-0.5	0	0	3.5	3		
0.5								-	-		
φ8	1	1	1	-1.5	0	0	4.5	3	3		
							1.5	-	-		
φ10	3.5	3.5	3.5	0.5	0.5	0.5	2.5	2.5	2.5		
							-	-	-		

スイッチ取付方式	無接点スイッチ(F2S、F3S)						動作範囲	応差
チューブ内径 (mm)	RD		HD					
	ストローク(mm)							
	4	6	8 (10)	4	6	8 (10)		
φ6	5.5	5.5	5.5	9.5	11.5	13.5	1.5～3.5	1.0 以下
φ8	5.5	5.5	5.5	9.5	11.5	13.5		
φ10	7	7	7	11	13	17		

スイッチ取付方式	無接点スイッチ(F2H/V、F3H/V、F2YH/V、F3YH/V、F3PH/V)												動作範囲	応差
チューブ内径 (mm)	RD			HD			X1(注 2、3)			X2(注 2、3)				
	ストローク(mm)													
	4	6	8 (10)	4	6	8 (10)	4	6	8 (10)	4	6	8 (10)		
φ6	6.5	6.5	6.5	1	1	1	4.2	2.2	0.2	8.7	6.7	4.7	1.5～3.5	1.0 以下
							1.2	-	-	5.7	3.7	1.7		
φ8	6.5	6.5	6.5	1	1	1	4.2	2.2	0.2	8.7	6.7	4.7		
							1.2	-	-	5.7	3.7	1.7		
φ10	8	8	8	2.5	2.5	2.5	2.7	0.7	-	7.2	5.2	1.2		
							-	-	-	4.2	2.2	-		

注 1: スイッチ 2 個付きの最小ストロークは 2 ページを参照してください。

注 2: X 寸法はスイッチの本体端面からの出張り寸法を示します。上段はリード線ストレートタイプ、下段はリード線 L 字タイプ時の X 寸法を示します。

注 3: X1 は F2H/V、F3H/V の場合、X2 は F2YH/V、F3YH/V、F3PH/V の場合の寸法です。

2.3.3 スイッチの移動方法

- 1** 締付ねじ(止めねじ)を緩めます。
- 2** 本体側面の溝またはレールプレートに沿ってスイッチ本体を移動させ、所定の位置でねじを締付けます。
- 3** 所定の位置を決め、ねじを締付けます。

2.3.4 スイッチの交換方法

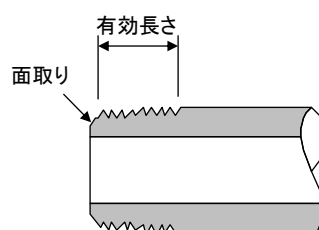
- 1** 締付ねじ(止めねじ)を緩めます。
- 2** スイッチ本体を溝から抜きます。
- 3** 交換用スイッチを溝の中へ入れます。
- 4** 所定の位置を決め、ねじを締付けます。
(締付トルクは、F2、F3、F0、F3P、F2Y、F3Y の場合 0.03～0.08N・m です。)

2.4 配管方法

⚠ 警告

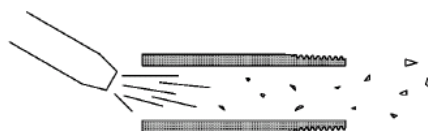
チューブは継手のチューブエンドに当たるまで確実に挿入し、継手から抜けないことを確認してから使用する。

- ・フィルタ以降の配管材は亜鉛メッキ管やナイロンチューブ、ゴム管など、腐食しにくいものを使用してください。
- ・配管は、シリンダが所定のピストン速度を出せるだけの有効断面積があるものを使用してください。
- ・配管内のさび、異物、ドレン除去のためフィルタはできるだけ電磁弁の近くに取り付けてください。
- ・ガス管のねじ長さは有効ねじ長さを守ってください。また、ねじ部先端より 1/2 ピッチほど面取り仕上げをしてください。



■ 配管の清掃

配管の前には、配管内の異物、切削粉などを除去するため、エアブローを行って清掃してください。

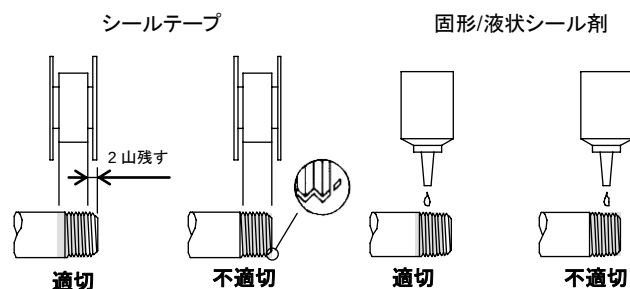


■ シール剤

配管の漏れ止めにはシールテープまたはシール剤を使用します。

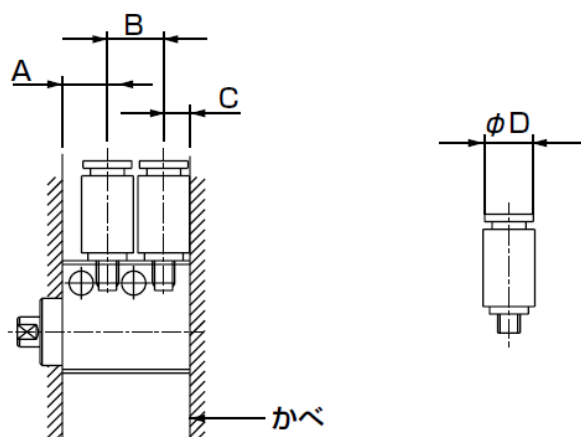
シールテープまたはシール剤は、ねじ部分の先端から 2 山以上内側の位置に付けます。配管のねじ部分より先端に出ていると、ねじ込みによってシールテープの切れ端やシール剤の残材が配管、機器の内部に入り込み、故障の原因になります。

シールテープを使用する場合は、ねじの方向と反対方向に巻付け、指先で押さえてねじに密着させてください。液状シール剤を使用する場合は、樹脂部品に付着しないように注意してください。樹脂部品が破損し、故障や誤作動などの原因になります。また、めねじ側にはシール剤を塗布しないでください。



2.4.1 配管継手

使用できる配管継手には制限があります。下記を参照してください。



<かべがある場合>

項目 チューブ 内径 (mm)	接続 口径	ポート位置寸法(mm)				かべがある場合		
		ストローク	A	B	C	使用できる継手	継手外径 φD	使用できない継手
φ4	M3	3	6.5	7	3.5	GWS3-M3-S FTS4-M3	φ7 以下	GWS4-M3-S SC3W-M3-3 SC3W-M3-4 SC3U-M3-3 SC3U-M3-4
		6	6.5	10	3.5			
φ6	M3	4	6	7.5	3.5	GWS3-M3-S FTS4-M3	φ7 以下	GWS4-M3-S SC3W-M3-3 SC3W-M3-4 SC3U-M3-3 SC3U-M3-4
		6	6	9.5	3.5			
		8	6	11.5	3.5			
φ8	M3	4	6	7.5	3.5	GWS3-M3-S FTS4-M3	φ7 以下	GWS4-M3-S SC3W-M3-3 SC3W-M3-4 SC3U-M3-3 SC3U-M3-4
		6	6	9.5	3.5			
		8	6	11.5	3.5			
φ10	M5	4	7	10	5	GWS※-M5-S SC3W-M5-※ SC3U-M5-※ GWS4-M5-S FTS4-M5 FTS6-M5	φ10 以下	GWS※-M5 GWS6-M5-S
		6	7	12	5			
		10	7	16	5			

※ポート位置寸法は標準・スイッチなしの時の寸法です。

<かべがない場合>

項目 チューブ 内径 (mm)	接続 口径	ポート位置寸法(mm)				かべがない場合		
		ストローク	A	B	C	使用できる継手	継手外径φD	使用できない継手
φ4	M3	3	6.5	7	3.5	GWS3-M3-S FTS4-M3	φ7 以下	GWS4-M3-S SC3W-M3-3 SC3W-M3-4 SC3U-M3-3 SC3U-M3-4
		6	6.5	10	3.5	GWS3-M3-S GWS4-M3-S FTS4-M3 SC3W-M3-※ SC3U-M3-※	φ10 以下	
φ6	M3	4	6	7.5	3.5	GWS3-M3-S SC3W-M3-※ SC3U-M3-※	φ7.5 以下	GWS4-M3-S
		6	6	9.5	3.5	GWS3-M3-S GWS4-M3-S FTS4-M3	φ9.5 以下	
		8	6	11.5	3.5	SC3W-M3-※ SC3U-M3-※	φ11.5 以下	
φ8	M3	4	6	7.5	3.5	GWS3-M3-S SC3W-M3-※ SC3U-M3-※	φ7.5 以下	GWS4-M3-S
		6	6	9.5	3.5	GWS3-M3-S GWS4-M3-S FTS4-M3	φ9.5 以下	
		8	6	11.5	3.5	SC3W-M3-※ SC3U-M3-※	φ11.5 以下	
φ10	M5	4	7	10	5	GWS※-M5-S SC3W-M5-※ SC3U-M5-※ GWS4-M5-S FTS4-M5 FTS6-M5	φ10 以下	GWS※-M5 GWS6-M5-S
		6	7	12	5	GWS※-M5-S SC3W-M5-※ SC3U-M5-※ GWS4-M5-S GWS6-M5-S FTS4-M5 FTS6-M5	φ12 以下	GWS6-M5
		10	7	16	5	GWS※-M5-S SC3W-M5-※ SC3U-M5-※ GWS4-M5-S GWS6-M5-S GWS4-M5 GWS6-M5 FTS4-M5 FTS6-M5	φ14 以下	

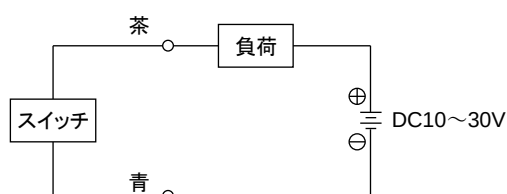
※ポート位置寸法は標準・スイッチなしの時の寸法です。

2.5 配線方法

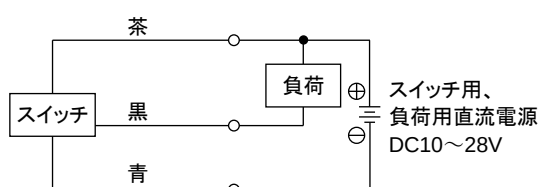
2.5.1 無接点スイッチ

■ リード線の接続

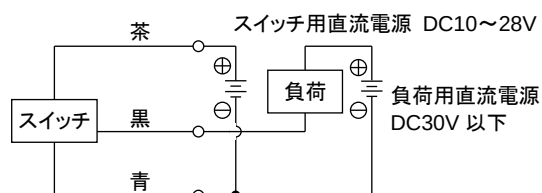
リード線の色分けに従って正しく接続してください。このとき、必ず接続側電気回路の装置の電源を OFF にして作業してください。通電しながらの作業は、スイッチ・負荷電気回路の破損につながる可能性があります。また、誤配線をしたり、負荷が短絡すると、スイッチだけでなく負荷側電気回路の破損につながります。



2 線式基本回路例



3 線式基本回路例(1)
(スイッチ電源と負荷用電源が同一の場合)

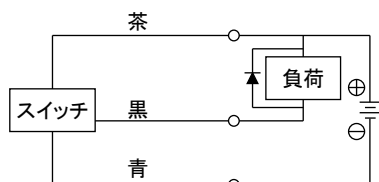


3 線式基本回路例(2)
(スイッチ電源と負荷用電源が異なる場合)

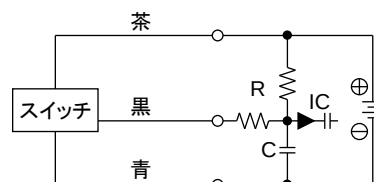
■ 出力回路の保護

下記の場合は、図を参照して必ず保護回路を設けてください。

- 誘導性負荷(リレー、電磁弁)を接続して使用する場合: 例 1
スイッチ OFF 時にサージ電圧が発生するため、サージ吸収素子を使用してください。
- 容量性負荷(コンデンサ)を接続して使用する場合: 例 2
スイッチ ON 時に起動電流が発生するため、電流制限抵抗を使用してください。
- リード線配線長が 10m を超える場合: 例 3、4 (2 線式)、例 5(3 線式)

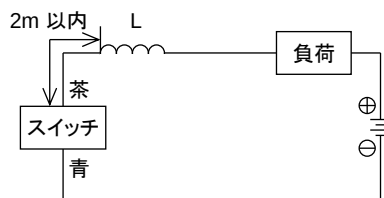


例 1 誘導負荷にサージ吸収素子(ダイオード)を使用した例。ダイオードは日立製作所製 V06C、または相当品を使用してください。

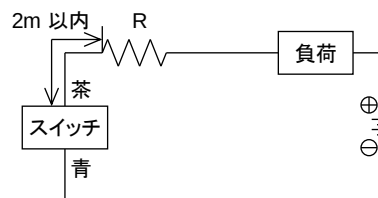


例 2 容量性負荷に電流制限抵抗 R を入れた例。
この時抵抗 R(Ω)は次式以上を使用してください。

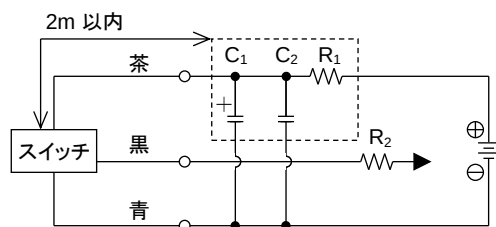
$$\frac{V}{0.05} = R(\Omega)$$



例 3・チョークコイル
L=数百 μH～数 mH
高周波特性にすぐれたもの
・スイッチの近くで配線する(2m 以内)



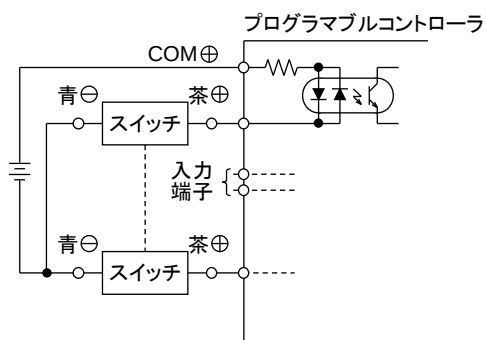
例 4・突入電流制限抵抗
R=負荷側回路が許すかぎり大きな抵抗
・スイッチの近くで配線する(2m 以内)



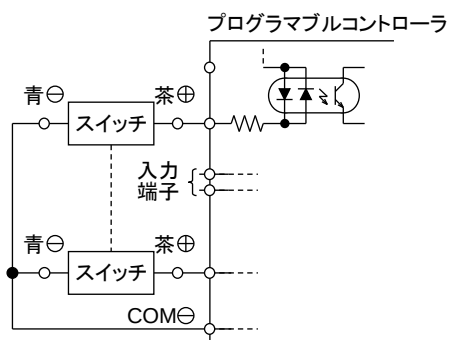
例 5・電源ノイズ吸収回路
C1=20～50μF 電解コンデンサ
(耐圧 50V 以上)
C2=0.01～0.1μF セラミックコンデンサ
R1=20～30Ω
・突入電流制限抵抗
R2=負荷側回路が許すかぎり大きな抵抗
・スイッチの近くで配線する(2m 以内)

■ プログラマブルコントローラへの接続

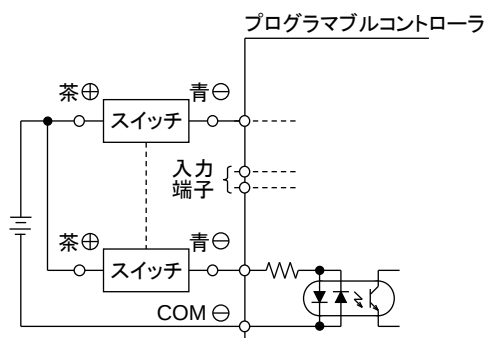
プログラマブルコントローラの形式により、接続方法が異なります。下図のように接続してください。



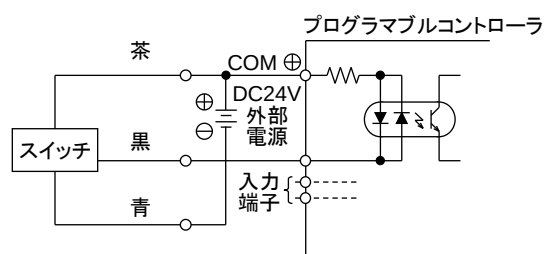
ソース入力(電源外付)形への2線式接続例



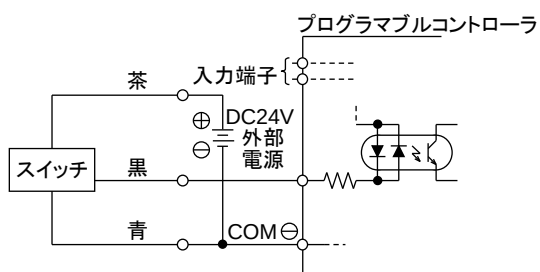
ソース入力(電源内蔵)形への2線式接続例



シンク入力(電源外付)形への2線式接続例



ソース入力(電源外付)形への3線式接続例



ソース入力(電源内蔵)形への3線式接続例

■ 並列接続

2線式スイッチは、漏れ電流が接続個数分増加するため、接続負荷であるプログラマブルコントローラの入力仕様を確認したうえで、接続個数を決めてください。ただし、表示灯が暗くなったり、点灯しなくなる場合があります。

3線式スイッチは、漏れ電流が接続個数分増加するものの、漏れ電流値が非常に小さい(10 μ A以下)ため、通常は問題になることはありません。また、表示灯が暗くなったり、点灯しなくなることはありません。

2.5.2 有接点スイッチ

■ リード線の接続

スイッチのリード線は、直接電源に接続せず、必ず負荷を直列に接続してください。

また、F0 スwitchの場合、下記の 2 項目についても注意してください。

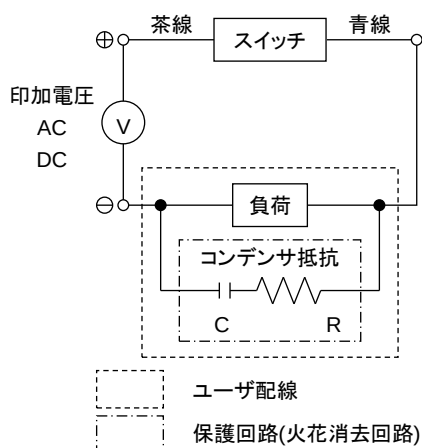
- DC 用として使用する場合、茶線が＋側、青線が－側になるように接続してください。逆に接続した場合、スイッチは作動しますが、表示灯は点灯しません。
- AC のリレー、プログラマブルコントローラ入力に接続して、それらの回路で半波整流を行うと、スイッチの表示灯が点灯しないことがあります。その場合、スイッチリード線接続の極性を逆向きにすると表示灯が点灯します。

■ 接点保護対策

リレーなどの誘導性負荷で使用したり、配線路長が右表の数値を越える場合には、必ず接点保護回路を設けてください。

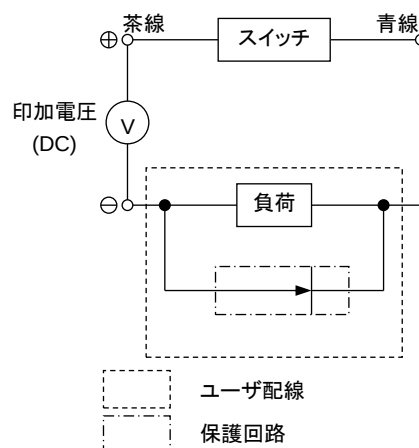
電源	配線長
DC	50m
AC	10m

<誘導性負荷を接続する場合の保護>



推奨値 C コンデンサ 0.033~0.1 μ F
R 抵抗 1~3k Ω
岡谷電機製 XEB1K1 または相当品

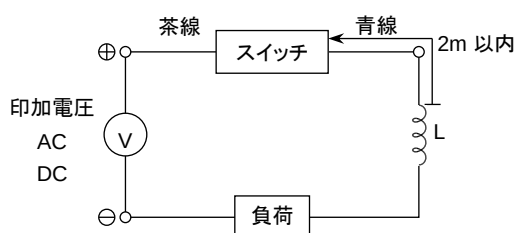
コンデンサ、抵抗使用時



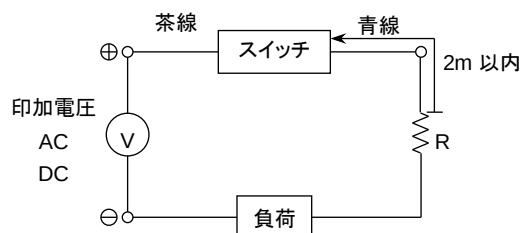
一般用整流ダイオード
日立製作所 V06C または相当品

ダイオード使用時

<配線路長が上表の数値を越える場合の保護>



- ・ チョークコイル
L= 数百 μ H~数mH
高周波特性にすぐれたもの
- ・ スwitchの近くで配線する(2m以内)



- ・ 突入電流制限抵抗
R= 負荷回路側が許すかぎり大きな抵抗
- ・ スwitchの近くで配線する(2m以内)

■ 接点容量

スイッチの最大接点容量を超える負荷の使用は避けてください。また、定格電流値を下回る場合は表示灯が点灯しないことがあります。

■ リレー

リレーは下記相当品を使用してください。

- ・ オムロン株式会社 ……………MY 形
- ・ 富士電機株式会社 ……………HH5 形
- ・ パナソニック株式会社 ……………HC 形

■ 直列接続

F0 スwitchを複数直列に接続して使用する場合、スイッチでの電圧降下は接続したすべてのスイッチの電圧降下の和になります。

表示灯はすべてのスイッチが ON した時のみ点灯になります。

■ 並列接続

スイッチを複数並列に接続して使用する場合、接続個数に制限はありませんが、F0 スwitchの場合スイッチの表示灯が暗くなったり、点灯しなくなることがあります。

3. 使用方法

3.1 シリンダの使用方法

■ 使用圧力の範囲

下記の圧力範囲内で使用してください。

機種	チューブ内径	圧力範囲(MPa)
MDC2-HP1	φ4	0.2～0.7
	φ6、φ8	0.15～0.7
	φ10	0.1～0.7

■ 許容吸収エネルギー

当製品では、シリンダに取付けられる外部負荷により発生するエネルギーは吸収できません。
無負荷で使用または、外部に別途緩衝装置を設けてください。

■ ピストン速度の調整

ピストン速度はスピードコントローラを取付けて、調整してください。

3.2 スイッチの使用方法

警告

有接点スイッチ付きの MDC2 を使用する際は、シリンダを磁性体(鉄板等)に取付けることができないため注意する。

無接点スイッチ付きの MDC2 を使用する際は、周囲温度 40℃以下で使用する。
スイッチ検出不良の原因になります。

■ 磁気環境

周囲に強磁場、大電流(大形磁石、溶接機など)がある場所での使用は避けてください。スイッチ付シリンダを接近させて並列に取付ける場合や、シリンダのすぐ近くを磁性体が移動する場合には相互に干渉し合い、検出精度に影響が出ることがあります。

シリンダ取付ボルトは非磁性体(ステンレス製六角穴付きボルトなど)を使用してください。スイッチ検出不良の原因になります。

■ リード線の配線

リード線に繰返し曲げ応力、引張り力が掛からないよう、配線するときに配慮してください。
可動部にはロボット用線材のように耐屈曲性能のある線材を接続、配線してください。

■ 周囲温度

高温(60℃以上)の環境では使用しないでください。
磁気部品、電子部品の温度特性により、性能に影響が出ることがあります。

■ 中間位置検出

ストロークの途中でスイッチを作動させる場合、ピストン速度が速すぎるとリレーが応答しなくなるため、注意してください。

■ 衝撃

シリンダの運搬、スイッチの取付け、調整の際には、大きな振動や衝撃を与えないでください。

4. 保守、点検

警告

製品を分解しない。

スイッチ付アクチュエータなどの電気配線の接続部(裸充電部)に触れない。

素手で充電部を触らない。

感電するおそれがあります。

注意

メンテナンス管理が正しく実施されるように、日常点検、定期点検を計画的に行う。

メンテナンス管理が十分でない場合、製品の機能が著しく低下し、短寿命や破損、誤作動などの不具合、事故につながります。

4.1 定期点検

本製品を最適な状態で使用するために、1～2回/年の定期点検を行ってください。

4.1.1 点検項目

- 作動状態
- ピストン速度、サイクルタイムの変化
- 外部漏れ、内部漏れ
- ピストンロッドの傷、変形
- ストロークの異常

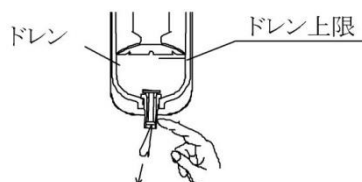
以上の箇所を確認し、異常があれば“5. トラブルシューティング”を参照してください。なお、ねじの緩みがあれば締付けてください。

4.1.2 製品のメンテナンス

本製品は無給油で使用できます。

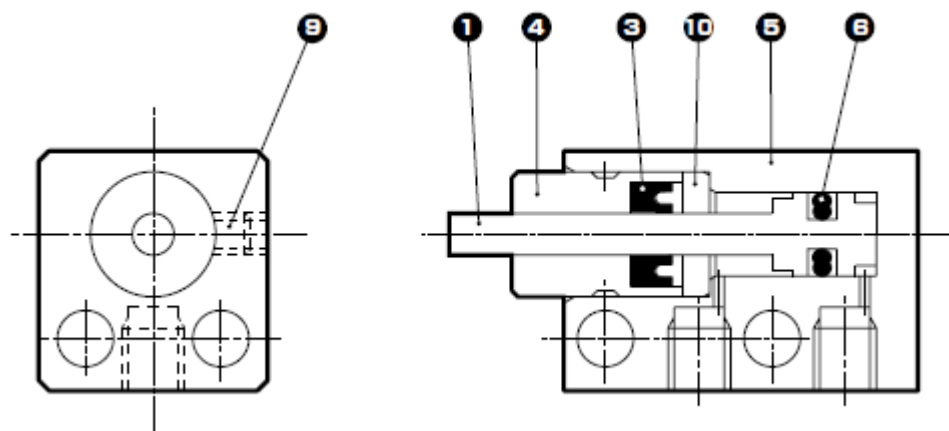
4.1.3 回路のメンテナンス

- エアフィルタにたまったドレンは、指定ラインを超える前に定期的に排出してください。回路内にコンプレッサオイルの炭化物(カーボンまたはタール状物質)などの異物が混入すると、電磁弁やシリンダが作動不良を起こすため、コンプレッサの保守、点検時には注意してください。

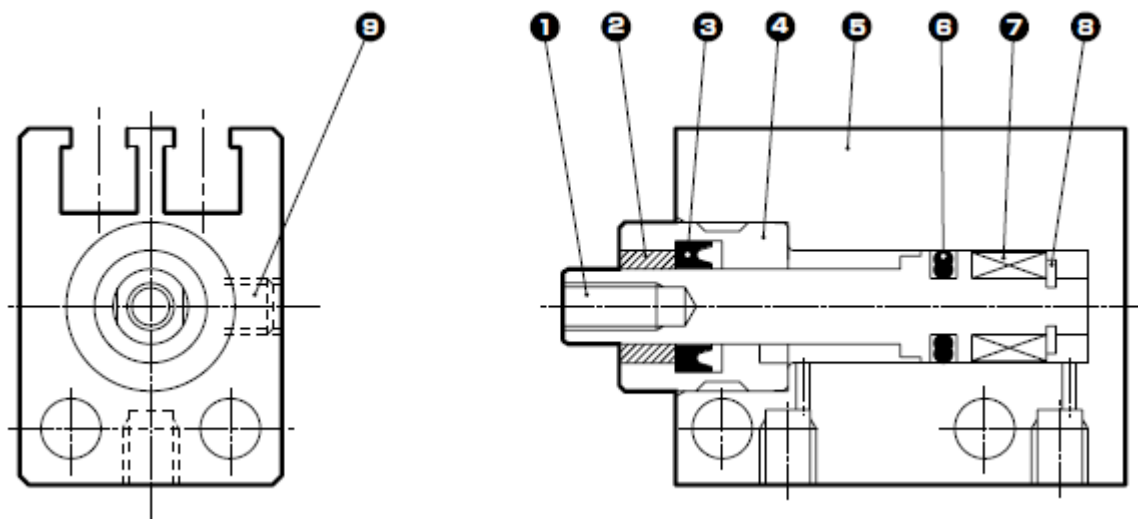


4.1.4 内部構造

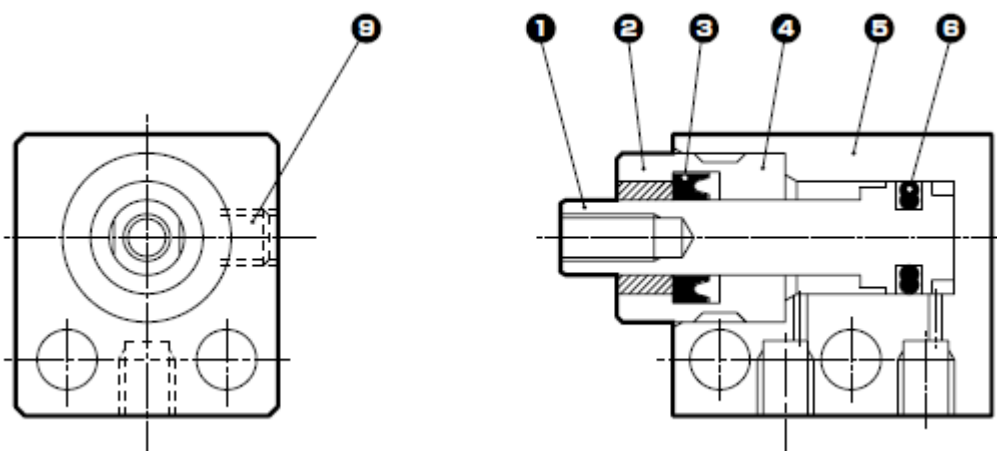
●MDC2-4(複動片ロッド形)



●MDC2-L-6,8,10(複動片ロッド形・スイッチ付)



●MDC2-6,8,10(複動片ロッド形)



部品リスト

品番	部品名	材質	備考
1	ピストン	ステンレス鋼	
2	ブシュ	含油銅合金	
3	ロッドパッキン	ニトリルゴム	
4	ロッドメタル	φ4:リン青銅 φ6～φ10:ステンレス鋼	
5	シリンダ本体	アルミニウム合金	硬質アルマイト
6	ピストンパッキン	ニトリルゴム	
7	磁石	プラスチック	
8	E 形止め輪	ステンレス鋼	
9	六角穴付止めねじ	ステンレス鋼	
10	カラー	ステンレス鋼	

5. トラブルシューティング

5.1 トラブルの原因と処置方法

本製品が目的どおりに作動しない場合は、下表に従って点検してください。

5.1.1 シリンダ部

不具合現象	原因	処置方法
作動しない	圧力がない、圧力が不足している	圧力を確保する
	方向制御弁に信号が入っていない	制御回路を修正する
	取付けの芯が出ていない	取付状態を修正する 取付形式を変更する
	ピストンパッキングが破損している	製品を交換する
スムーズに作動しない	使用ピストン速度以下の速度になっている	負荷変動を緩和する
	取付けの芯が出ていない	取付状態を修正する 取付形式を変更する
	横荷重が掛かる	ガイドを設ける 取付状態を修正する 取付形式を変更する
	負荷が大きい	圧力を上げる チューブ内径を上げる
	速度制御弁がメータイン回路になっている	速度制御弁をメータアウト回路に変える
破損、変形している	高速作動による衝撃力が大きい	速度を遅くする 負荷を軽くする より確実なクッション機構を設ける (外部クッション機構)
	横荷重が掛かる	ガイドを設ける 取付状態を修正する 取付形式を変更する

5.1.2 スイッチ部

不具合現象	原因	処置方法
スイッチは作動する が表示灯が点滅しない	スイッチの接点が溶着している	スイッチを交換する
	負荷が定格オーバーしている	推奨リレーに交換、またはスイッチを交換する
	表示灯が破損している	スイッチを交換する
	外部信号が不良である	外部回路を再確認する
スイッチ出力が ON しない	配線が断線している	スイッチを交換する
	外部信号が不良である	外部回路を再確認する
	電圧が違う	指示電圧にする
	取付位置が違う	正常な位置にする
	取付位置がずれている	ずれを修正し、締付ける
	スイッチの向きが逆になっている	正常な向きにする
	ストローク途中の検出時に負荷(リレー)が応答できない	速度を遅くする 推奨リレーに交換する
	負荷が定格オーバーしている	推奨リレーに交換、またはスイッチを交換する
スイッチ出力が OFF しない	ピストンが移動していない	ピストンを移動させる
	スイッチの接点が溶着している	スイッチを交換する
	リレーが定格オーバーしている	推奨リレーに交換、またはスイッチを交換する
	周囲温度が適正でない	-10～60℃の範囲にする
	近くに磁場がある	磁気シールドをする
	外部信号が不良である	外部回路を再確認する

その他不明な点は、最寄りの当社営業所、代理店にご相談ください。

6. 保証規定

6.1 保証条件

■ 保証範囲

下記保証期間中に明らかに当社の責任と認められる故障が発生した場合、本製品の代替品や必要な交換部品の提供、または当社工場での修理を無償で行わせていただきます。

ただし、次の項目に該当する場合は、この保証の対象範囲から除外させていただきます。

- ・ カタログ、仕様書、本取扱説明書に記載されている条件・環境以外で取扱いしたり、使用した場合
- ・ 取扱不注意などの誤った使用、誤った管理に起因する場合
- ・ 故障の原因が本製品以外の事由による場合
- ・ 製品本来の使用方法以外で使用した場合
- ・ 当社が関わっていない改造または修理が原因の場合
- ・ 本製品を貴社の機械、装置に組込んで使用されるとき、貴社の機械、装置が業界の通念上備えられている機能、構造などを持っていれば回避できた損害の場合
- ・ 納入当時に実用化されていた技術では予見できない事由に起因する場合
- ・ 天災、災害など当社の責任でない原因による場合

なお、ここでいう保証は、本製品単体の保証を意味するもので、本製品の不具合により誘発される損害については除外させていただきます。

■ 適合性の確認

お客様が使用されるシステム、機械、装置への当社製品の適合性は、お客様の責任でご確認ください。

■ その他

本保証条項は基本事項を定めたものです。

個別の仕様図または仕様書に記載された保証内容が本保証条項と異なる場合には、仕様図または仕様書を優先します。

6.2 保証期間

本製品の保証期間は、貴社のご指定場所への納入後 1 年間といたします。